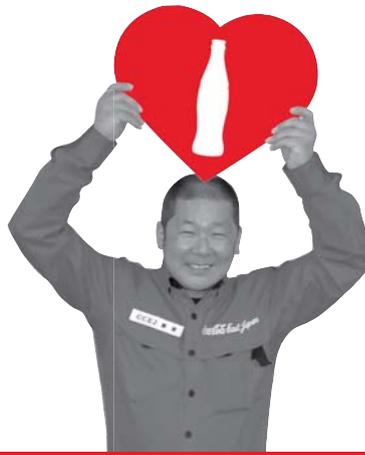




*Coca-Cola East Japan*

**Sustainability  
Report 2014**



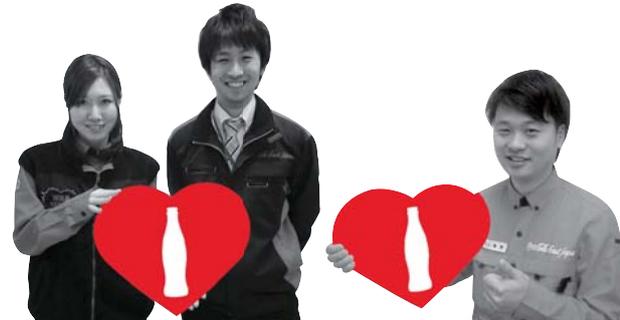


# We are Coca-Cola Ambassador

いつでも、どこでも、誰もが  
世界中のすべての  
人びととつながる。  
私たちは、  
コカ・コーラ アンバサダーです。



AMBASSADOR





世界のコカ・コーラシステム\*で働く私たちの仲間は、70万人以上。その一人ひとりがコカ・コーラの信頼性と評価を高めるコカ・コーラ アンバサダーとして行動することで、サステナブルな社会づくりに貢献していきたいと考えています。みなさまにコカ・コーラブランドを愛していただけよう、ビジネスを通じた取り組みはもちろん、職場を離れたプライベートな生活のなかでも、家族や友人、地域社会の人びとと積極的に関わり、地球環境にプラスの影響を与え、より良い未来を生み出す活動を推進しています。

**\*コカ・コーラシステム**

原液の供給と製品の企画開発や広告などのマーケティング活動を行うザ コカ・コーラ カンパニー（日本では日本コカ・コーラ(株)）と、製品の製造・販売を行うボトリング会社（以下:ボトラー社）や関連会社などで構成されています（詳細はP31をご覧ください）。

## コカ・コーライーストジャパングループ 企業理念

コカ・コーライーストジャパングループの想い。それは、飲料を通じて明るい未来を創り続けること。私たちは、これまでの常識や価値観を変えることを恐れず、バリューチェーンのあらゆる領域において、イノベーションとチャレンジに取り組みます。そして、人びとに新たな感動と驚きをお届けし、より豊かでうるおいに満ちた世界を実現します。

Mission

ミッション  
(使命)

—革新と挑戦— 飲料の新しい世界を創る

Vision

ビジョン  
(目指す姿)

持続的成長によりすべての  
ステークホルダーに貢献する

飲料業界のナンバーOne企業となる  
地域社会にとってOnly One企業となる  
従業員が働きがいと誇りを感じるBest One企業となる

one+



Coca-Cola East Japan



# コカ・コーラ アンバサダーは、日々の行動を通じて『コカ・コーラ』にしかない特別な価値を広めます。

コカ・コーラシステムの一員であるコカ・コーライーストジャパングループの従業員は、コカ・コーラ社製品の製造・物流・販売を行うボトラー社として、以下のコンセプトにもとづいたさまざまな事業活動を展開していきます。

## Drink

コカ・コーラ社製品は、世界中に爽やかさと楽しいひとときをお届けしています。自社製品を積極的に飲み、周囲の人びとと分かち合い、前向きでハッピーな気持ちを呼び起こします。

## Uplift

製品やプログラムを通じて、多くの人びととコミュニケーションをとることによって、コカ・コーラ社製品に対する信頼性と評価を高めます。

## Refresh

飲み終わったボトルはリサイクルする。移動するときには階段を使ってみる。そういった小さなアクションの積み重ねが、大きな変化を生み出します。

## Interview

コカ・コーラ アンバサダーの代表として、コカ・コーライーストジャパングループの3人を紹介します。



CEO は、  
コカ・コーラ アンバサダー



ママ は、  
コカ・コーラ アンバサダー



パパ は、  
コカ・コーラ アンバサダー

## Index 目次

コカ・コーラ アンバサダー	P1
コカ・コーライーストジャパングループ 企業理念	P3
コカ・コーラ アンバサダー コンセプト/目次	P4
コカ・コーラ アンバサダー インタビュー	P5

コカ・コーライーストジャパングループにおける サステナビリティの考え方	P15
--	-----

### Me (people)

お客さまの健康と価値  
創造に貢献する活動

活動的で健康的な生活習慣	P16
さまざまな教育活動	P17
製品の品質と安全性	P18
責任あるマーケティング活動	P19

### We (community)

働きがいのある職場づくり、  
地域社会の発展に貢献する活動

働きがいのある職場づくり	P21
地域社会の発展に貢献する活動	P23

### World (environment)

持続可能な地球環境  
への取り組み

環境活動報告	P25
水資源保護	P25
サステナブル・パッケージ (持続可能な容器)	P26
温暖化防止・エネルギー削減	P27
環境コミュニケーション	P27
環境指標データ	P28
マネジメント体制	P29
日本のコカ・コーラシステム/ コカ・コーライーストジャパングループの事業展開	P31
コカ・コーライーストジャパングループの概要	P32



CEOは、コカ・コーラ アンバサダー





## コカ・コーラ アンバサダーを トップ自ら実践する

東京・赤坂のコカ・コーライーストジャパン本社。代表取締役社長CEOのカリン・ドラガンは、通りかかる従業員一人ひとりに声をかける。いつも微笑みを絶やさず、従業員とフランクに接する人柄は、周囲を魅了して止まない。そして、コカ・コーラ社製品をこよなく愛する。「日本に来てから『綾鷹』のファンになりました。お茶本来の香りがして飲みやすいので、毎日飲んでます」。

通勤には車を使わず、真夏や真冬でも徒歩で通う。また、飲み終わった後のPETボトルは、必ずラベルをはずし、つぶしてからリサイクルボックスへ入れる。「コカ・コーラシステムでは、PETボトルはゴミではなく資源。リサイクルボックスをダストボックスなんて言ったら、怒られますよ(笑)」。

トップ自ら実践するコカ・コーラ アンバサダー活動は、コカ・コーライーストジャパングループ全体へ広がりがつつある。

## ビジネスと ステークホルダーへの貢献を両立

関東圏にあった4つのボトリング会社の経営統合により、コカ・コーライーストジャパン(株)は、日本で最大、世界でトップ5に入るボトラーとなった(売上ベース)。「今後は、統合によるスケールメリットとポテンシャルを十二分に活かし、すべてのステークホルダーに期待以上の満足を提供していきます」。

「『2020 Vision\*』の目標達成に向け、Water Stewardship(ウォーター・スチュワードシップ: 水の効率的活用、排水管理、水資源保護)、環境保全活動、サステナブル・パッケージ、新たなリサイクルシステムを主眼に置き、引き続きビジネスとステークホルダーへの貢献を両立させるよう努めていきます」。

事業活動とともに、サステナビリティにおいてもワールドクラスボトラーを目指していく考えだ。

\*2020年までに世界全体でビジネスの規模を2倍に成長させるコカ・コーラシステムの長期成長戦略。



## 秘書から見た 「カリン社長はこんな人」

外部からお客さまがいらっしやると、本当に温かく、ホスピタリティーを持って迎えています。また、従業員に対してもとてもフレンドリーで、「従業員全員のファーストネームと誕生日を覚えている」といううわさまであるみたいです(笑)。

オフィスワークや会議などがある以外は、お客さまと会うたり、現場を見に行ったりするなど、積極的に出かけていきます。社内で得られる情報だけでなく、実際の市場環境を自身の目で確認することを重視しています。また、海外での駐在経験が豊富で、母語のルーマニア語以外にも英語、イタリア語、フランス語が堪能です。日本語の上達もとても早く、まさにアンバサダーの中のアンバサダーのような人だと思っています。



コカ・コーライーストジャパン株式会社  
HRアドミニストレーション部  
サポートサービス課  
社長秘書  
若原 尚子



ママは、コカ・コーラ アンバサダー





コカ・コーラ・イースト・ジャパン株式会社  
コマーシャルリーダーシップ統括部  
戦略企画&トレードマーケティング  
トレードマーケティング課 スペシャリスト

# 海老原 紀子

Noriko  
Ebihara

小売店向けの営業職を経て、11年前から販売プロモーションを行う部署に配属。現在は、「いろ・は・す」を担当している。

## 「世界中の誰もが知っているコカ・コーラ社製品を通じて、ハッピーを届けていきたい」



### 『いろ・は・す (I LOHAS)』を飲んだお客さまと一緒に地球がハッピーになる

「コカ・コーラ社製品を通じて、ハッピーを届ける仕事をしてみたかった」と、海老原は入社のも動機を思い出すように話した。「楽しいことの横には、いつも『コカ・コーラ』がある。そう思っていただけのような仕事ができたら、と考えていました」。

そんな彼女は今、当社の販売エリアでの『いろ・は・す』販売プロモーション担当として、コカ・コーラシステムと公益財団法人コカ・コーラ教育・環境財団が実施する「'地元の水' 応援プロジェクト」に取り組んでいる。『いろ・は・す』は、全国各地の厳選された名水地から採れた天然水。飲用後は簡単に「しぼれる。容器にすることで、「おいしい」と「環境にいい」を両立したウォーターブランドである。日本発のサステナブル・ブランドとして、コカ・コーラシステムでは、同様のコンセプトを持つ製品を当社の販売エリアだけでなく、多くの国々や地域で販売展開している。

「日本各地の地元が育てた水を守りたいという思いから、お客さまにご購入いただいた売上金の一部を水資源を守る活動に寄付しています。『いろ・は・す』を飲んだお客さまと一緒に地球がハッピーになるプログラムですね。寄付金は、河川や湖沼をきれいにする活動のほか、森林の管理や植林、地元の方々が参加する自然保護活動などに役立てられる。「2014年3月からコカ・コーラシステムにおいて、『飲んで、しばって、ホテルが輝く水辺を守ろう』というテーマで、自然保護活動の効果をホテルの生息数などでよりわかりやすく伝えるプログラムがスタートしました。当社では、この活動をきちんと伝えられるように販促資材も導入しました。多くの方々に水資源への関心が広がってくれたら、うれしいです。製品を売るだけでなく、売上拡大によって社会に貢献するという取り組みが実践されている。



東京都「緑の東京募金」における「'地元の水' 応援プロジェクト」の活動



「い・ろ・は・す自動販売機」



「ルーフトップ緑化自動販売機」

### 女性ならではの視点で、サステナビリティの新分野を拓く

海老原は4年前にも『い・ろ・は・す』の販売プロモーションを担当していた。「その頃、都心エリアを中心に『い・ろ・は・す』のエココンセプトを受け継いだ展開が始まりました。自動販売機の売上金の一部を緑を守る活動に寄付させていただくとともに、自動販売機にLED照明やシンプルデザインなどを採用した環境にやさしい取り組みです。このコンセプトに多くのお取引先さまから共感をいただき、自動販売機を設置していただくことができました。その後、東京・自由が丘の街とのコラボレーションを推進するプロジェクトが立ち上がり、自動販売機の上部を緑化した『ルーフトップ緑化自動販売機』の導入が始まりました。環境保全だけでなく、自動販売機を通じた地域活性化にも寄与するこの活動に、私もプロジェクトチームの一員として参画しました」。

こうした女性ならではの視点で、サステナビリティの新たな分野を開拓する取り組みは、女性の活躍推進の原動力となっている。

### 2020年になっても、ハッピーを届け続けていきたい

海老原のように、積極的に高いレベルの仕事にチャレンジする女性従業員が増えるなか、女性同士の交流も広がっている。「子どもを持つ女性従業員でときどき『ママ会』を開いています。情報交換をしたり、ときには愚痴を言ったりすることで、ストレス解消にもなっています(笑)」。

「今後は、もう一歩進んだ形で販売プロモーションの仕事に取り組んでいきたいと思います。One+ロードマップ\*の目標達成に向けて、これからもコカ・コーライーストジャパンの一員として、ハッピーを届け続けていきたいですね」。

2020年には、子どもたち3人が成長し、海老原もプロジェクトを統括するリーダーになっているだろう。その未来に向けて、彼女はこれからもハッピーを届け続けていく。

\*当社では、持続的成長戦略を実現するため、5段階にわたるOne+ロードマップを始動させています。



### 人事制度の有効活用でワークライフバランスを保つ



当社では育児短時間勤務制度や半日休暇制度など、働き方の変化に対応した人事制度が充実してきています。こうした制度を取得しやすい職場環境であることもうれいすね。そのおかげで、毎日の子どもの送り迎えや家事はもちろん、帰ってから子どもの話を聞き、笑顔を見る時間を過ごすことができます。朝早く起きて、一日の準備をするのは大変ですが、主人のサポートもあり、仕事と家庭を両立しながら楽しむことができます。

# My Life My Work

製造現場のリーダーとして、  
家庭の良きパパとして  
大切なものを守り続ける日々



## 表彰式



きょう職場で  
[OE推進教習者] というものに  
認定されました。  
人に認められる立場から、  
人を認める立場に。  
身の引き締まる思いです。

## ある日娘と

週末は久しぶりに次女と  
ドライブに行きました。  
高校受験が終わり、卒業まで  
暇しているようなので…  
部活のこと、進路のこと  
(まだ先ですが)  
ゆっくり話をするいい機会が  
できました。





パパは、コカ・コーラ アンバサダー



I am  
Coca-Cola  
Ambassador

木村 守人  
Name



コカ・コーライーストジャパンプロダクツ株式会社  
製造統括部 東海工場  
製造課 課長

# 木村 守人

Morito Kimura

地元である愛知県の工場で、製造現場の仕事に就く。現在は管理職として、品質と製造効率の向上、環境負荷の低減に奮闘している。

## 「決めたこと、決められたことは必ず守り実行する。この当たり前が大事なんです」



### ムダなくロスなく、計算どおりの時間・数量で、環境に配慮した製品をつくり上げる

コカ・コーライーストジャパングループは、関東圏にあった4つのボトリング会社を統合し、さらなるシナジー効果を目指して、2017年までに新たに450~500億円の設備投資を計画・実施している。グループの製造会社であるコカ・コーライーストジャパンプロダクツ(株)では、製造効率の改善に向け、戦略的インフラの整備を進めている。

「非生産時間を短縮するために、製造ラインの効率化だけでなく、製造の前後を含めた作業の徹底的な効率化を図っています。たとえば、プリフォーム(原形)を熱で膨張させ、さまざまな形のPETボトルをつくるインラインブローという機械を導入して、輸送によるCO<sub>2</sub>排出量を低減するとともに、多品種生産にも柔軟に対応しています。東海工場では、製品を変えるごとに機材を洗浄するCIP\*にかかる時間を短縮する活動に注力してい

ます。また、製品の洗浄水などではできるだけ再利用しています」。

製造効率の改善に加え、サステナビリティの観点から水をリサイクルして自然環境に安全に戻している。「製造工程で使った水は、生物処理で不純物を分解し、活用可能なレベルに戻してから排水します。同時に製品をつくるために使った水をすべて自然にかえす『Water Neutrality(ウォーター・ニュートラリティ)』のコンセプトにもとづいて、環境を大切に作る工場を目指しています」。

このように、ムダなくロスなく、計算どおりの時間・数量で、製品をつくり上げるという、コカ・コーラシステムのモノづくりの背景には、Operational Excellence(略称OE)という業務改善プロセスのコンセプトがある。

\*CIP: Clean In Placeのこと。定置洗浄ともいわれ、ポンプやスプレーで殺菌剤・水を機器・配管類内に循環させ、ポンプと設備を分解せずに洗浄・殺菌するシステムのこと。



東海工場 排水処理施設



### 8つのムダを撲滅し、改善活動を推進

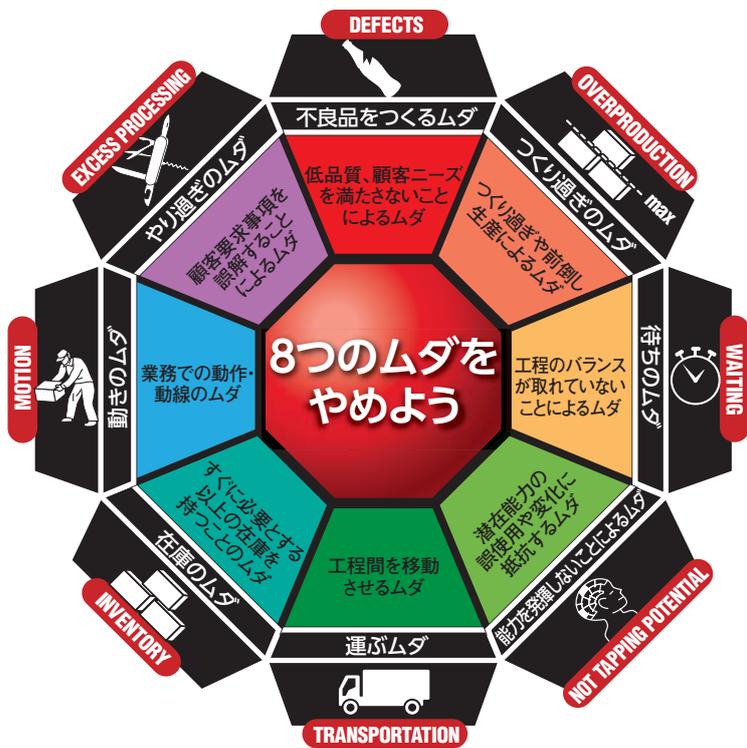
OEでは「作業の標準化」と「ムダの排除」を徹底し、各プロセスにおける時間の短縮、数量の確保を目的に、作業の見直し項目として「8つのムダ」を掲げ取り組んでいる。

「それぞれの職場でOEを実践するとともに、その成果を的確に伝えることで、8つのムダを撲滅し、改善活動を推進しています」。

### チャンスは全員に。 やらされ感ゼロで臨んでほしい

管理職として木村は、製造工場だけでなく、全員にいろいろな経験をさせ、チャンスを与えたいと考えている。

「全員参加、やらされ感ゼロで臨んでほしい。工場では毎朝『決めたこと、決められたことは必ず守り実行します』と唱和し、全員が自発的に活動することで、働きがいのある職場づくりを目指しています」。



製品の安心・安全を守る  
世界共通の  
マネジメントシステム

コカ・コーラ製品は、世界共通のマネジメントシステム「KORE(コア)」によって世界各国が定める基準よりも厳格に製造されています。製造工場においては、原材料の入荷から製品の出荷にいたる各工程に「KORE」の基準が設定されています。コカ・コーラ製品の品質は世界トップレベルであると胸を張って言えますね。

また、労働安全衛生についても厳格な基準があります。製品に携わるすべての従業員および製造環境には、労働安全と衛生管理について明確で厳しい基準が設定されています。製造に関わる従業員および製造環境は最高の安全性を持つと言えると思います。



# コカ・コーラ・イーストジャパングループにおけるサステナビリティの考え方

コカ・コーラシステムのビジネスは、活気ある地域社会と人びとの健やかな生活とともに成長してきました。「2020 Vision」の目標達成に向け、さらなる事業の発展を目指す上で、サステナビリティ（持続可能性）に取り組むことは、必要不可欠であると考えています。コカ・コーラ・イーストジャパングループは、お客さま、地域社会、そして環境の面においてもワールドクラスボトラーにふさわしい取り組みを、地域の特色に合わせさまざまなかたちで推進しています。

## サステナビリティの重点分野

### Me (people)

#### お客さまの健康と価値創造に貢献する活動

- 活動的で健康的な生活習慣 ..... P16
- さまざまな教育活動 ..... P17
- 製品の品質と安全性 ..... P18
- 責任あるマーケティング活動 ..... P19

### We (community)

#### 働きがいのある職場づくり、地域社会の発展に貢献する活動

- 働きがいのある職場づくり ..... P21
- 地域社会の発展に貢献する活動 ..... P23

### World (environment)

#### 持続可能な地球環境への取り組み

- 環境活動報告 ..... P25
- 水資源保護 ..... P25
- サステナブル・パッケージ(持続可能な容器) ..... P26
- 温暖化防止・エネルギー削減 ..... P27
- 環境コミュニケーション ..... P27
- 環境指標データ ..... P28

## 2020 Vision

「2020 Vision」は、ザ コカ・コーラ カンパニーの長期成長戦略で、2010年を基点に2020年までに世界全体でビジネスの規模を2倍に成長させることを目指すものです。目標達成のため

の優先事項として職場、取引先、収益、製品、環境、業務効率に関わる目標を掲げ、日本においても各ボトラー社、関連会社と協力して「2020 Vision」の達成を目指し取り組みを進めています。コカ・コーラ・イーストジャパンもコカ・コーラシステムの一員としてこの取り組みを推進しています。



## 活動的で健康的な生活習慣

心身の健康や健全なライフスタイルを提案する清涼飲料メーカーとして、活動的で健康的な生活習慣づくりを支援するためのさまざまなスポーツ事業への協賛などを通じ、人びとが運動やスポーツに親しむ機会を広く提供しています。

### スポーツを通じた 活動的で健康的な生活習慣の促進

ザ コカ・コーラ カンパニーは、グローバルなスポーツイベントに協賛しています。コカ・コーラシステムの一員である当社では、製品の販売などを通じてこのグローバルなスポーツイベントを応援しています。

当社の販売エリアにおいては、「全日本少年サッカー大会 (コカ・コーラシステム特別協賛)」など、スポーツ振興だけで

なく次世代を担う子どもたちの健全な育成を支援しています。

2013年の「佐渡国際トライアスロン」や「静岡マラソン」では、チームコカ・コーラとして従業員自ら競技に出場し、身体をはってイベントを盛り上げました。

また、地域で親しまれている市民マラソン大会やママさんバレーボール大会を支援しています。毎年、各地域から多くの人びとが参加し、熱戦が繰り広げられる地域交流の場で、コカ・コーラ社製品が選手の喉をうるおしています。

### Football



全日本少年サッカー大会 ©J.LEAGUE PHOTOS



### Volleyball



コカ・コーライーストジャパンカップ  
静岡県ママさんバレーボール大会

### Marathon



静岡マラソン

## Active Healthy Living



### Triathlon



佐渡国際トライアスロン

## Global Sport Events



グローバルなスポーツイベント応援販売促進活動



## さまざまな教育活動

地域のみなさまに愛される企業を目指し、積極的なコミュニケーションを行っています。コカ・コーラ イーストジャパングループでは、工場見学や食育活動を通じ、清涼飲料に関する正しい知識とバランスよい食生活の普及推進に努めています。

### 工場見学

コカ・コーラ社製品をより多くのみなさまに親しんでいただくため、コカ・コーラ イーストジャパングループの製造会社であるコカ・コーラ イーストジャパンプログラツ(株)では4か所の工場で見学を実施しています。『コカ・コーラ』の製品や歴史、環境への取り組みをご紹介するとともに、実際に製造工程を見ていただきながら、製品ができるまでを楽しく体験でき、小学生から大人まで、みなさまにご利用いただいています。2013年は、年間約5万人の方々にご来場いただきました。

工場見学は、地域のみなさまと直接会話ができる貴重な機会であり、地域貢献の原点として重要な活動と考えています。



多摩工場の製造ラインを見学する小学生



東海工場でコカ・コーラ製品の説明を聴く親子連れ

コカ・コーラ工場見学をさせていただきありがとうございました。  
 たくさんのお話を聞かせていただきました。  
 例えば、コカ・コーラが生まれた場所、コラを作った人、  
 コラが日本にきた時代などです。  
 本当にありがとうございました。  
 お体を大事にしてください。

コカ・コーラ多摩工場見学の件、ありがとうございます。  
 私はコラが大好きでよく、祝いの日に飲んでいます。いろいろしたこともあります。1つは出来たてのコラを飲む本気で飲んでいた事です。2つ目はコカ・コーラ社で「ジョージア」「太陽のマテ茶」「アクエリアス」「そうけん美茶」などが作られていた事です。このような事を知られて、良い経験になりました。本当にありがとうございました。  
 おいしー!!

### 「Qooのちゃんと食べよう体操」

子どもの不規則な食生活や生活習慣に対し、コカ・コーラらしいFun & Excitement(胸躍る楽しさを共有する)アプローチで、子どもたち自らが楽しんで取り組める「食育」をサポートしています。

「Qooのちゃんと食べよう体操」は、子どもが楽しみながら、食べることについての正しい習慣や知識を身につけてもらうことを目的とした「食育体操」です。

伸びやかな体操、わかりやすい歌詞、軽快なメロディが特徴で、コカ・コーラ イーストジャパンの販売エリアで開催されたさまざまなイベント会場に参加されたみなさまより「バランスよく食べることの大切さを親子で楽しみながら体感できた」という声をいただきました。

注:「Qoo(クー)」、クーフレんズは、コカ・コーラ社の低果汁飲料「クー」のキャラクターです。



「Qooのちゃんと食べよう体操」

## 製品の品質と安全性

お客様の多様なライフスタイルに対応し、いつでもどこでも安全でおいしい製品をご提供できるよう、お客様に信頼いただける徹底した品質管理に努めています。コカ・コーラシステム独自のマネジメントシステムによって、製品の品質と安全性を高めています。

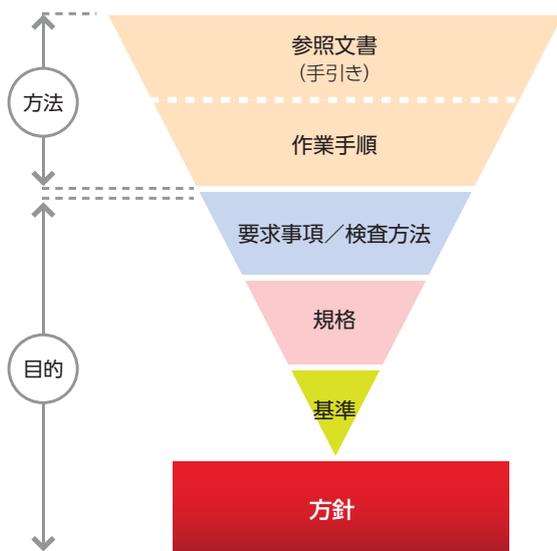
### マネジメントシステム「KORE(コア)」

コカ・コーラシステムでは、独自のマネジメントシステム「KORE(Coca-Cola Operating Requirements)」によって、世界共通のオペレーション管理を行っています。「KORE」は、原材料の調達から製造、物流・輸送、販売を経て、お客様に製品をお届けするまでの過程における「品質」「食品安全」「環境」および「労働安全衛生」に関する基準を網羅したシステムで、

国際規格であるISOや各種法令の要求事項を満たし、より厳しい方の基準を自らに課す内容となっています。

コカ・コーラシステムでは、各項目の要求事項に対する実際のパフォーマンス状況を審査登録機関が客観的に評価することで、マネジメントシステムの公開・公正な運用が保証されています。

#### ● 「KORE」フレームワーク図



品質 参照文書	食品安全 参照文書	環境 参照文書	労働安全衛生 参照文書
品質 作業手順書	食品安全 作業手順書	環境 作業手順書	労働安全衛生 作業手順書
品質 要求事項	食品安全 要求事項	環境 要求事項	労働安全衛生 要求事項
品質 規格	食品安全 規格	環境 規格	労働安全 衛生規格
品質 基準/法令 ISO9001	食品安全 基準/法令 FSSC22000	環境 基準/法令 ISO14001	労働安全衛生 基準/法令 OHSAS18001
品質	食品安全	環境	労働安全衛生

### 国際規格への対応

コカ・コーラシステムでは、全製造工場においてISO9001(品質)、ISO14001(環境)、FSSC22000(食品安全)を取得し、OHSAS18001(労働安全衛生)への適合にも対応しています。

### 製品・水・原材料の安全性

「KORE」にもとづいて製品に使用する水の放射性物質を測定し、製品・水・原材料を適正に保管しています。国の基準とコカ・コーラシステム独自の安全基準のうち、より厳しい方の基準のもとで、日本および海外の検査機関による厳密な安全性検査を実施しており、これまでの検査で基準を超える値が計測されたことは一切なく、問題がないことを確認しています。今後も公的機関による基準の設定や事業環境の変化などに柔軟に対応していきます。

## 責任あるマーケティング活動

お客様の健康的なライフスタイルをサポートする一環として、「責任あるマーケティング活動」に取り組んでいます。コカ・コーライーストジャパングループでは、お客様のニーズにお応えする製品の製造・販売、パッケージやウェブサイトを通じた飲料製品に関する情報提供、お客様の声への対応、正しい水分補給の認知・普及活動、自動販売機を活用した取り組みなどを行っています。

### お客様のニーズにお応えする製品の提供

お客様の活動的で健康的な生活を応援するために、お客様のお好みや健康志向に合わせ、さまざまな工夫を施した製品を製造・販売しています。

#### ● 主なカロリーゼロ・カフェインゼロ飲料

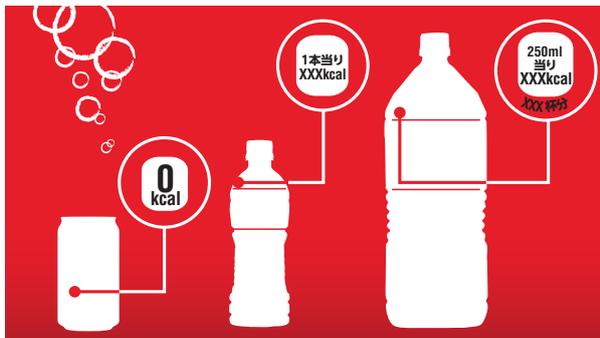


### 製品に関する情報発信

コカ・コーラシステムでは、お客様の健康への関心に応え、正しい知識の提供に努めています。製品の成分に関する情報については、製品パッケージや日本コカ・コーラ(株)のウェブサイトなどを通じて情報を公開し、お客様にわかりやすくお伝えしています。

#### ● 製品パッケージ前面カロリー表示

ほぼすべて\*のコカ・コーラ社製品のパッケージ前面にカロリーを表示しています。



\*ファウンテン(カップベンディング、ディスペンサーを含む)、リターナブルボトル、パウダー製品、希釈製品、水(無糖・フレーバーなし)については、製品パッケージ前面カロリー表示の対象外となります。

\*カロリーは正数(小数点以下切捨て)で表示しています。

\*大型パッケージについては250mlを1杯分として容量換算しています(小数点第二位四捨五入)。

### お客様の声への対応

コカ・コーライーストジャパングループでは、「お客様からのご指摘」対応の国際規格「ISO10002(JIS Q 10002)\*」への自己適合宣言を行い、お客様やお取引先さまからの「ご指摘」に対し、社内の各部門が緊密な連携を図り、スピーディーに対応する体制を整えています。

\*ISO10002(JIS Q 10002)

お客様満足向上のために、製品・サービスの品質やご指摘対応プロセスの継続的な改善を図ることを目的とした国際規格で、PDCAサイクル(Plan(計画)→Do(実施)→Check(監視・監査)→Action(見直し))によるマネジメントシステムの運用を規定しています。

#### 製品に関するお問い合わせ

日本コカ・コーラ(株)

お客様相談室(土日・祝日を除く9:30~17:00)

☎0120-308509

### 水分補給講座

水分補給の正しい認知・普及活動に努めています。小学校の夏休み期間中に開催される企業特別授業などに参加し、「水分補給の大切さと、正しい水分補給の方法」「熱中症の怖さ」などについて、実験を通じながら楽しく学んでいただいています。



## 自動販売機を活用した取り組み

「いつでも、どこでも、誰にでも、おいしい飲料を手にすることができる」利便性を活かし、自動販売機を活用した環境保全や災害支援、地域の活性化に取り組んでいます。

### ■「ピークシフト自販機」

冷却のための電力使用を一般的に電力使用が「ピーク」となる日中から、比較的電力に余裕のある夜に「シフト」し、夏の日中の冷却用電力を最長16時間、消費電力を最大95%削減しました。

当社の販売エリアにおける「ピークシフト自販機」設置台数(新品機) **11,877台**(2014年1月現在)



### ■さまざまな社会貢献型自動販売機

自動販売機を設置させていただいているお取引先さまと協働で、自動販売機の売上金の一部を社会貢献活動や環境保全活動を行っている団体などに寄付する取り組みを展開しています。製品購入を通じて寄付を行うことができる身近な社会貢献ツールとして、多くの方々から支持されています。



【い・る・は・す自動販売機】



【CIESF(シーセフ)自動販売機】



【ピンクリボン自動販売機】



【スペシャルオリンピックス自動販売機】

### ■「ルーフトップ緑化自動販売機」

ルーフトップ部分に、コケの一種「スナゴケ」と人工芝を組み合わせた緑化シートを施し、表面の温度上昇を抑え、冷却効率の向上を図りました。一定の消費電力削減効果を見込むことができます。



### ■災害対応型自動販売機

大規模災害などの発生時、遠隔操作により無償で製品を提供できる自動販売機。災害時には、上部の電光掲示板に必要な情報を流すことも可能です。東日本大震災発生時には製品の無償提供が行われ、帰宅困難者の方々から感謝の声を多数いただきました。

## 働きがいのある職場づくり

コカ・コーラーストジャパングループでは、従業員が最高の力を発揮できる会社であることを目指し、意欲的な働き方を支援するとともに、多様性に富み、安全かつ健全で開かれた職場環境づくりに努めています。

### 従業員に対する基本的な考え方

コカ・コーラーストジャパングループは、「従業員が働きがいと誇りを感じるBest One(ベスト・ワン)企業となる」ことをビジョンに掲げています。もっとも重要なコンセプトは、一人ひとりがコカ・コーラシステムの一員であることに誇りを持ち、コカ・コーラーストジャパングループの健康で健全な職場環境、労働習慣のもとで働ける企業を目指すということです。

#### ● 従業員の状況(連結) (2013年12月31日現在)

従業員数	男性	7,188名
	女性	703名
平均年齢		40.1歳
平均勤続年数		14.5年
管理職任用者数		1,215名
女性管理職任用者数		19名
育児休業制度利用者数(累計)		55名
障がい者雇用率		1.7%
非正規雇用からの従業員登用者数(通年)		77名
定年退職者再雇用者数(通年)		100名

注：従業員数は正社員、嘱託を含む。

### 健全な労使関係

Best One(ベスト・ワン)企業を目指すために、会社と労働組合の協働は重要であり、労使協議会や労使懇談会などを通じて課題解決に取り組んでいます。互いに成長を促し合い、健全な労使関係の構築を目指しています。

### 人事方針

コカ・コーラーストジャパングループでは、明確な人事方針を定め、報酬、職務体系、福利厚生、評価、就業環境、人材マネジメント/能力・キャリア開発の制度を段階的に整えています。たとえば「評価」では、2014年からグループの全従業員に対し、何(What)を達成したかという業績に加え、そのためにどのような行動をとったのか(How)を評価し、処遇につなげる制度を導入しています(一部は2015年から導入)。従業員が継続的にパフォーマンスを発揮し、それに対して会社が適切に報いる取り組みを推進しています。

#### ● コカ・コーラーストジャパングループ 人事方針

- ① 全社員に対し、意欲ややりがいを感じられる機会を提供し、潜在能力の高い社員には、成長のサポートを提供する
- ② 職場における能力開発を重視し、推進する
- ③ パフォーマンス(成果と発揮能力)に連動して報いる
- ④ 適時適材適所で登用し、職責に応じて処遇する
- ⑤ チームでの成果創出を支援する
- ⑥ 社員の多様なバックグラウンド(性別・年齢・経験など)を尊重する
- ⑦ 社員の健康とワークライフバランスを推進する
- ⑧ ファンクションごとのマネジメントシステムを確立し、各専門性の向上を支援する

#### 制度ごとの方向性

報酬	職務体系	評価	人材マネジメント/能力・キャリア開発
<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体として市場競争力のある報酬水準の実現を目指す</li> <li>・マーケット価値や社内公平性を担保すべく職務に応じた基本給を設定する</li> <li>・基本給は職務ごとに範囲を設定し、専門能力・スキル・経験を反映する</li> <li>・パフォーマンスの評価差に応じ、変動給(賞与・インセンティブ)で適切に報いる</li> <li>・チーム成果を反映させる仕組みとする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職務ごとにその内容と責任を明確に定義する</li> <li>・グローバルな職務評価ツールを用いて各職務の内容を評価し、グレードを決定する</li> <li>・キャリア開発や組織改編の円滑化をサポートする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個人の業績目標は、上長の目標に連動し、事業全体の戦略・目標に沿ったものとする</li> <li>・社員一人ひとりの業績と発揮能力を評価し、包括的に処遇に反映させる</li> <li>・能力評価は、コンピテンシー(行動要件)にもとづき行う</li> <li>・評価者と被評価者の双方向コミュニケーションを徹底する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ファンクションごとに、現場主導のマネジメントを促進する</li> <li>⇒各ファンクションに人材開発ビジネスパートナーを配置し、組織開発を支援する</li> <li>・ファンクションごとに必要とされる能力や専門性を強化する</li> <li>⇒能力開発は上長および本人の両方が責任を持つものとする</li> <li>・社員のキャリア開発を支援する</li> <li>⇒社員の主体性を重んじ、自己開発を支援する</li> <li>⇒自己開発に必要な具体的コンピテンシー(行動要件)や知識、スキルを開示する</li> <li>・将来重要な役割を担う後継者を発掘し、育成を強化する</li> <li>・グローバルに通用するリーダーになれるよう、能力を備えつつ希望する社員には育成支援を行う</li> </ul>
	<h4>福利厚生</h4> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各種制度を整理し、社員に評価される制度を提供する</li> <li>・ウェルネス健康増進施策を推進する</li> </ul>	<h4>就業環境</h4> <ul style="list-style-type: none"> <li>・多様なバックグラウンドを持った社員が活躍できるよう、柔軟なワークスタイルを提供する</li> <li>・安全な職場環境を提供する</li> </ul>	

## 職場の安全および衛生管理

労働基準法、労働安全衛生法等関係法令に則り、コカ・コーラ イーストジャパンでは、安全衛生活動の充実を図り、労働災害を未然に防止するために必要な基本的事項を明確にし、従業員の安全と健康を確保するとともに快適な職場環境をつくります。

## 女性の活躍推進

「人事方針」で定めた従業員の多様なバックグラウンド(性別・年齢・経験など)を尊重することを実践するため、シニアマネジメント層を主要メンバーとするDiversity Committee(ダイバーシティ・コミッティー)を立ち上げ、迅速な意思決定と積極的な対応策を行うための仕組みづくりに着手しています。

特に、「女性の活躍推進」をもっとも重要なテーマととらえ、Gender Council(ジェンダー・カウンスル)を組織し、具体的な施策について検討を進めています。施策の立案にあたっては、従業員の意識調査を行い、主要ポストへの任用などについては積極的に推進しています。



## 従業員教育

工場や営業担当者、新任管理職などを対象とするトレーニングを実施しています。また、全国のコカ・コーラシステム合同で事例共有を定期的に行う活動を継続することで常に食の「安心」と「安全」を守り、お客さまとの信頼構築に努めています。

さらに、強いリーダーシップを発揮しビジネスを牽引するリーダーを育成する目的で、上級管理職約120名を対象としたリーダーシップ研修「LEAP(リープ)研修」を実施しています。



LEAP(リープ)研修

## ワークライフバランスの推進

プライベートの時間を充実することでリフレッシュし、新たな気持ちで出勤することは、さらなる業務効率の改善に重要です。千葉セールスセンターにおいてパイロットプログラムを組み、入社時間・退社時間のルールを設定するなど、「時間意識への変革」を推進・共有し、総労働時間の短縮に取り組んでいます。



時間意識への変革/総労働時間の短縮

## 地域社会の発展に貢献する活動

地域社会が健全であることが持続的な事業活動の前提であるという考えのもと、社会貢献活動に取り組んでいます。コカ・コーラーストジャングループでは、災害対策や自然保護活動のほか、子どものための教育支援など、幅広く地域社会における活動を展開しています。

### 東日本大震災復興支援および災害対策

#### ■被災地復興支援ボランティア

東北地方の被災地復興を支援するボランティア活動を震災直後の2011年から引き続き行っています。2013年は34名の従業員が宮城県南三陸町を訪問し、さまざまなお手伝いをさせていただきました。

実際に足を運び、現地の人たちとともに一生懸命に汗をかき活動を行った従業員のなかには、「次も必ず行きます」と語る人が少なくありません。これからも、私たちは微力ながら復興支援活動を続けていきます。



#### ■自治体との災害協定による飲料の優先供給

本業を通じた社会貢献として全国の自治体との災害協定を積極的に進めており、災害発生時に緊急に飲料が必要な場合、自治体の要請に応じ、優先的に飲料提供を行っています。また、災害発生時に電光掲示板で災害関連情報を掲出し、遠隔操作や手動によって機内在庫を無償で提供できる、災害対応型自動販売機の設置も進めています。当社の販売エリアでは、332の自治体と災害協定を締結しました(2013年10月現在)。

#### ●当社の販売エリアにおける災害協定締結自治体数

都道府県	10
市	113
町	114
村	2
市町村の外郭団体	93

#### ■コカ・コーラ復興支援基金を通じた取り組み

コカ・コーラ復興支援基金では、被災地の小中学校へ太陽光発電設備やスクールバスを贈るなどの復興支援を行っており、当社ではこの活動を支援しています。



## 自然保護活動

### ■ 環境ボランティア活動

コカ・コーライーストジャパングループの従業員は、各地域で実施される環境保全活動に積極的に参加しています。



霞ヶ浦・北浦地域清掃大作戦



### ■ 清掃活動

コカ・コーライーストジャパングループの各拠点では、熱心に清掃活動を行っています。自らが働く街や道を、自らの手できれいにしようという想いから自発的に始まった清掃活動は、地域のみなさまのご協力・ご理解に支えられて継続しています。



## 次世代を担う子どもたちへの活動支援

### ■ 奨学金事業

コカ・コーラ教育・環境財団では、経済的理由で進学困難である優秀な人材の育成を支援するため、奨学金を給付しています。1966年に開始した当奨学金事業は、当社の販売エリア内において、これまで555人の卒業者を輩出しています(2014年3月現在)。

### ■ 英語弁論大会

コカ・コーラシステムでは、1963年から「国際性豊かな青少年を育てる目的で、国際語である英語を熟達させるとともに、日本文化の発展ならびに国際親善に寄与すること」をコンセプトとした、高円宮杯全日本中学校英語弁論大会に協賛を続けています。2013年度は、当社の販売エリアより選出された学生が1位と5位に入賞しました。



### ■ コカ・コーラ出前かけっこ教室

コカ・コーラ教育・環境財団とNPO法人日本ランニング振興機構は、2011年より、小学校の体育の授業の一環として、子どもたちの向上心やチャレンジ精神を醸成しながら、正しい走り方を学ぶプログラムを展開しています。

2013年は、当社の販売エリアにおいて8校で開催され、840名の小学生に授業とともにコカ・コーラ社製品を楽しんでいただきました。



### ■ スーパーマーケットとの共同募金キャンペーン

お取引先さまであるスーパーマーケットと協働で、対象製品の売上金の一部を募金に充当するキャンペーンを展開しています。2013年は、(株)東急ストアさまなどとの協働により、赤い羽根共同募金へのご協力を呼びかけるキャンペーンを店頭で行いました。みなさまからお預かりした寄付金は、子育て支援活動に役立てさせていただきます。



赤い羽根共同募金



## 環境活動報告

コカ・コーラシステムでは、「2020 Vision」の環境目標として、持続的な水資源利用におけるリーダーとなること、また飲料容器(パッケージ)や地球温暖化防止・エネルギー削減の分野で飲料業界のリーダーになることを目指し、当社もこれらの目標達成に向けたさまざまな活動を推進しています。

### 水資源保護

#### ■ Water Stewardship (ウォーター・スチュワードシップ)

コカ・コーラシステムでは、清涼飲料を製造・販売する企業の社会的責任として水資源の持続的な活用に向けた、水資源管理プロジェクト「Water Stewardship」に世界各地で取り組んでいます。これは、取水管理、水質管理、効率的活用、排水管理、水資源保護の5つの側面から水資源を管理するものです。

#### ■ Source Water Protection (ソース・ウォータープロテクション)

「Water Stewardship」の一つの側面である水資源保護を推進するため、工場の水源エリアを特定し、その脆弱性を評価した上で水源保護計画を策定するプロジェクト「Source Water Protection」に取り組んでいます。この計画は、各地の地域特性・自然環境特性に合った水源保護活動につなげていくことを目的としています。

#### ■ Water Neutrality (ウォーター・ニュートラリティー)

水資源保護活動の一環として製品をつくるために使った分の水を自然にかえす「Water Neutrality」を推進しています。この取り組みは、2020年までに全世界で製品および製造で使用した量と同等量の水を自然に還元することを目指しています。

水源エリアの自然環境が持続的に水を育み蓄える力を持ち続けていけるよう、その土地や自然環境の特徴を踏まえながら地域や専門家の方々と力を合わせて活動に取り組んでいます。

当社の販売エリア内にある10工場すべてにおいて、2011年末までに工場の水源エリアを特定し、脆弱性の評価を終え、現在各工場の水源域の特性に合った水源計画に沿って活動しています。



使った水を自然にかえすコカ・コーラの取り組み

## Water Neutrality



## サステイナブル・パッケージ(持続可能な容器)

コカ・コーラシステムでは、製品パッケージは環境にやさしく、人にとっても使いやすくなければならないという考えのもと、「サステイナブル・パッケージ(持続可能な容器)」という世界共通のコンセプトで容器開発に取り組んでいます。

たとえばPETボトルでは、持ちやすさや輸送・保管時の耐久性など、製造からお客さまが飲み終わってボトルをリサイクル

### ● 地球と人にやさしい容器「サステイナブル・パッケージ」



するまで、すべての段階で使いやすいことを追求しながらパッケージ開発に取り組んでいます。さらに、軽量化に加えてコカ・コーラシステムならではのFUN(楽しさ)のあるデザインも大切にしています。

当社は、サステイナブルなパッケージを使用した製品を製造・販売しています。

### ● 容器に植物由来の素材を一部使用した「いろはす」



ウォーターブランド「いろはす」には、再生可能な植物由来材料を一部(5~30%)に使用した次世代型PETボトル「プラントボトル」を採用。

## コカ・コーライーストジャングループの Water Neutrality(ウォーター・ニュートラリティー)活動



当社工場の水源域と特定された森林や棚田において、地域のみならず地元行政のご協力のもと、Replenish(水源涵養)活動を推進しています。Water Neutralityの取り組みの一環として、岐阜県恵那市(森林141.5 ha/棚田1.0 ha)、神奈川県厚木市(森林1471.9ha)、群馬県片品村の3か所において、次世代を担う子どもたちに水源の探訪や植樹・間伐、田植え・稲刈りなどを体験していただき、水が循環する仕組みや水資源を守ることの大切さを伝える環境プログラムを実施しています。



群馬県片品村(利根川水系)  
「森林」  
埼玉工場・岩槻工場



神奈川県厚木市(相模川水系)  
「森林」  
海老名工場



岐阜県恵那市(木曾川水系)  
「森林」「棚田」  
東海工場・名古屋工場



群馬県片品村での取り組み



岐阜県恵那市での取り組み



神奈川県厚木市での取り組み

## 環境活動報告

### 温暖化防止・エネルギー削減

#### ■ 環境にやさしい、進化した自動販売機

コカ・コーラシステムでは、環境2015年中期目標の「温暖化防止・エネルギー削減」において、自動販売機のCO<sub>2</sub>排出総量をシステム全体で45.5%削減(2004年比)することを目標としています。この目標達成へ向けて、2011年より新規導入した自動販売機(缶・PETボトル用)は、すべてノンフロン・ヒートポンプ型としています。

#### ■ 製造・物流・オフィスでの取り組み

製造部門では生産性向上施策により、2015年までにコカ・コーラシステム全体で10%(2004年比)のCO<sub>2</sub>削減を目指しています。物流部門では、輸送の効率化やモーダルシフトの推進、エコドライブの推進・徹底、電気自動車やハイブリッド車など低燃費車両への入替促進などにより、システム全体でCO<sub>2</sub>削減5%(2004年比)の目標を設定しています。オフィス部門では、照明のLED化や空調設備の入替・更新などを通じてシステム全体で3%のCO<sub>2</sub>削減を目指しています。当社も目標達成に向け、事業を通じCO<sub>2</sub>削減に取り組んでいます。



電気自動車

### 環境コミュニケーション

#### ■ コカ・コーラ「森に学ぼう」プロジェクト

飲料メーカーであるコカ・コーラシステムにとって「水」は重要なもの。その「水」は、森や河川、海などの環境に深く関わっています。なかでも森は水を浄化し、環境を守る存在として価値の高いものといえます。

そこでコカ・コーラシステムでは、次世代を担う子どもたちを対象に、大切な水資源とその水を育む森林および自然保護の大切さを理解していただくことを目的とした、コカ・コーラ「森に学ぼう」プロジェクトを2006年から実施しており、当社も取り組んでいます。

また、地域に根ざした活動として、自然と触れ合い、森の豊かさや大切さを感じていただく体験学習や小学校での訪問授業を行っています。



コカ・コーラ  
「森に学ぼう」プロジェクトでの体験学習



訪問授業

#### ■ コカ・コーラ環境教育賞

コカ・コーラ教育・環境財団では、環境教育や環境保全に関する活動が顕著である団体・個人を1994年より表彰し、助成・支援を行っています。当社の販売エリアからは、8団体が優秀賞を受賞しました。



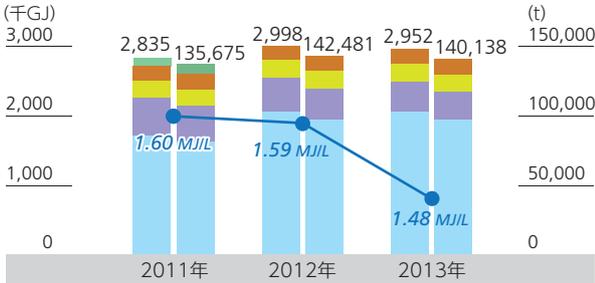
#### ■ 新潟セールスセンター「ビオトープ」設置

新潟セールスセンターでは、2012年11月の竣工と合わせ従業員の環境保全意識を高めることを目的に、事業所敷地内に「ビオトープ」を造成しました。「ビオトープ」とは、生物の生息環境を意味する生物学の用語で、環境教育の一環として近年注目されています。環境保全や生物多様性の大切さを意識できる職場づくりを今後も推進していきます。

## 環境指標データ (コカ・コーラ・イーストジャパングループ 製造関連会社 5社・11工場)

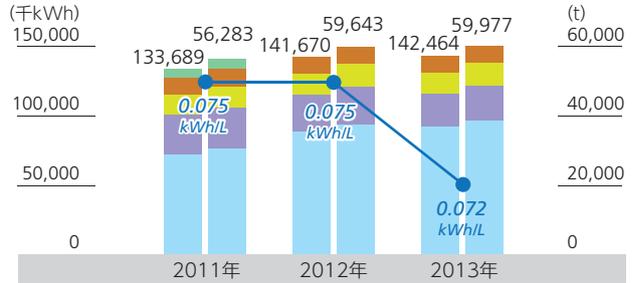
■コカ・コーラ・イーストジャパンプロダクツ(株) ■コカ・コーラ セントラル ジャパンプロダクツ(株) ■三国アセプティック(株)  
 ■白州ヘルス飲料(株) ■イトシア(株) 注: コカ・コーラ・イーストジャパンプロダクツ(株)は、コカ・コーラ セントラル ジャパンプロダクツ(株)、  
 三国アセプティック(株)、白州ヘルス飲料(株)を2014年1月に吸収合併。イトシア(株)は2012年1月に操業停止。

### ● エネルギー使用量とCO<sub>2</sub>排出量の推移 製品1リットルあたりのエネルギー使用量の推移



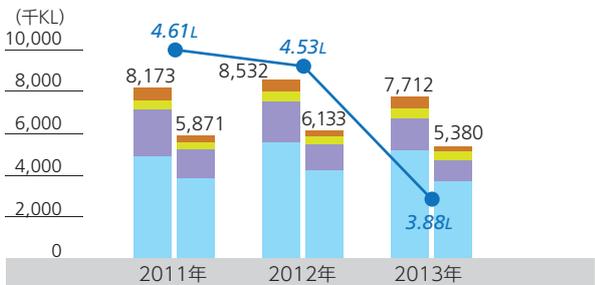
左: エネルギー使用量 右: CO<sub>2</sub>排出量  
 ● 製品1リットルあたりのエネルギー使用量の推移

### ● 電力使用量とCO<sub>2</sub>排出量の推移 製品1リットルあたりの電力使用量の推移



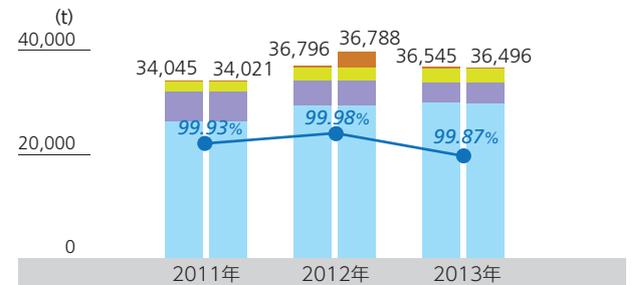
左: 電力使用量 右: CO<sub>2</sub>排出量  
 ● 製品1リットルあたりの電力使用量の推移

### ● 水使用量と排水量の推移 製品1リットルあたりの水使用量の推移



左: 水使用量 右: 排水量  
 ● 製品1リットルあたりの水使用量の推移

### ● 廃棄物排出量と再資源化量・率の推移



左: 廃棄物排出量 右: 再資源化量 ● 再資源化率

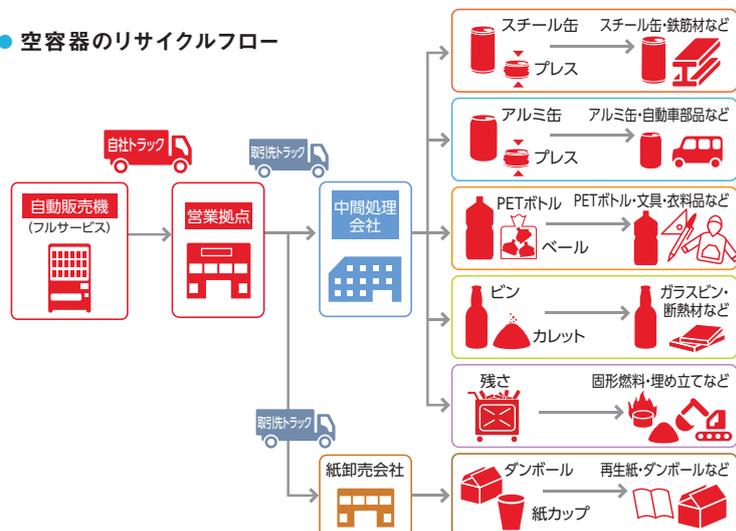
## コカ・コーラ・イーストジャパングループにおけるリサイクルの取り組み

飲料ビジネスにおける使用済み容器の回収と再資源化は大きな課題となっています。自動販売機の横にある空容器回収ボックスで回収された空容器は、限りある大切な資源と考え、江南リサイクルセンターや地域の廃棄物処理会社を通じて再資源化しています。また、市場からの回収物が適正に処理されていることを確認するため、委託先の廃棄物処理施設の現地視察を実施しています。



江南リサイクルセンター(自社施設)

### ● 空容器のリサイクルフロー



# マネジメント体制

## コーポレート・ガバナンス

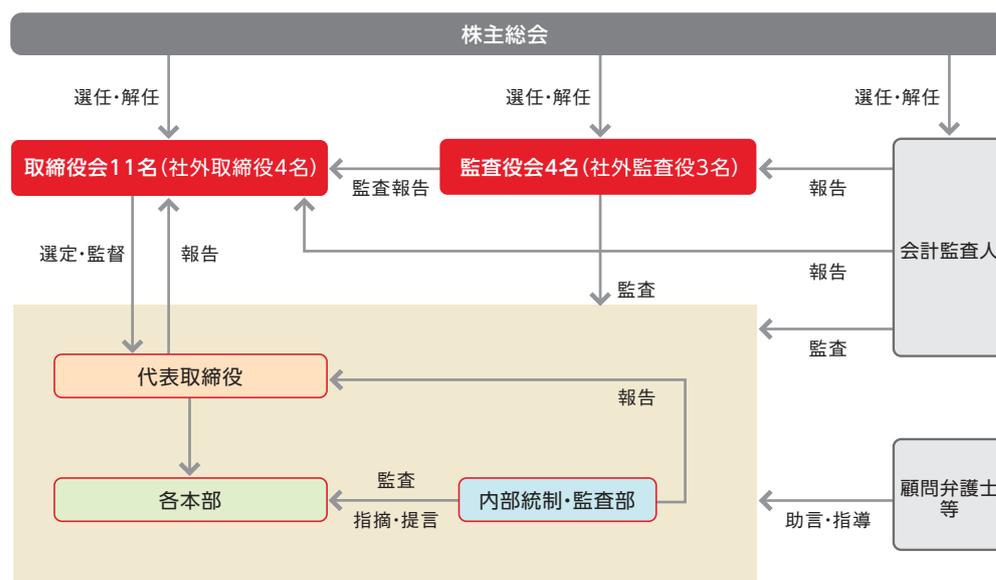
### ■ 基本的な考え方

当社は、コーポレート・ガバナンスの強化を経営の最重要課題であると考え、取締役会・監査役会体制により、迅速な意思決定による効率的なグループ運営を行い、経営の効率化、営業力の強化ならびに経営の透明性の確保に努めています。

### ■ コーポレート・ガバナンス体制

当社の取締役会は、11名の取締役によって構成され、うち4名が社外取締役であり、高い見地から経営意思決定を行うとともに業務執行の監督権限を強化することで、取締役会の機能が十分果たせるよう体制整備に努めています。また、取締役の任期を1年とし、単年度での経営責任を明確にしています。

監査役会は、4名の監査役によって構成され、うち3名が社外監査役です。監査役は取締役会その他重要な会議に出席するほか、代表取締役との意見交換の機会を設けることで取締役の職務執行に関わる監査機能を十分行える体制となっています。



### ■ 内部統制システム

内部統制の仕組みについては、内部監査部門として、内部統制・監査部を設置し、当社およびグループ会社の業務活動が法令および社内諸規程などに準拠して、適正かつ効果的に行われているか監査しています。法律上の判断を要する場合には、顧問弁護士等に適切な助言・指導を受けており、会計上の諸問題などについては、外部専門家である会計監査人と連携が図れるよう体制を整えています。

## 倫理・コンプライアンス

当社は、企業の社会的役割や責任を果たし、社会とともに持続的に発展する企業であり続けるために、従業員一人ひとりが誠実に行動するための基本事項を定めた「事業運営規範」を制定し、倫理・コンプライアンスを重視する社風の促進を図っています。社長からのメッセージや事業運営規範説明会の開催などを通じ、各職場の所属長が中心となって、倫理・コンプライアンスに対する考え方を従業員に浸透させています。

また、企業活動のなかで、各種法令や「事業運営規範」などに抵触するような事項および懸念がある場合に、専用メールや電話により直接相談できる「倫理・コンプライアンス相談窓口」を社内および社外の弁護士事務所に設置するなど体制を整えています。

## リスクマネジメント

当社の経営に多大な影響を及ぼすリスクの発生を予防するとともに、リスクが顕在化した場合には迅速かつ的確に対応するためのリスクマネジメント体制を構築しています。リスク予防活動では、全社でリスクの特定ならびにリスクアセスメントを行い、優先的に対応するリスクについては対応計画を策定し、計画に沿った活動を行っています。

また、階層および職務別にリスクマネジメント研修を実施し、リスクマネジメント意識と危機発生時の対応能力の向上を図っています。

## 個人情報・機密情報の保護

### ■ プライバシーポリシー

当社は、個人情報の重要性を尊重し、その保護の徹底を図るために、個人情報の保護に関して適用される法令を遵守するとともに、プライバシーポリシーを設定し、それにもとづいた活動を行っています。プライバシーポリシーは、お客様の個人情報に関係するすべての活動に適用します。

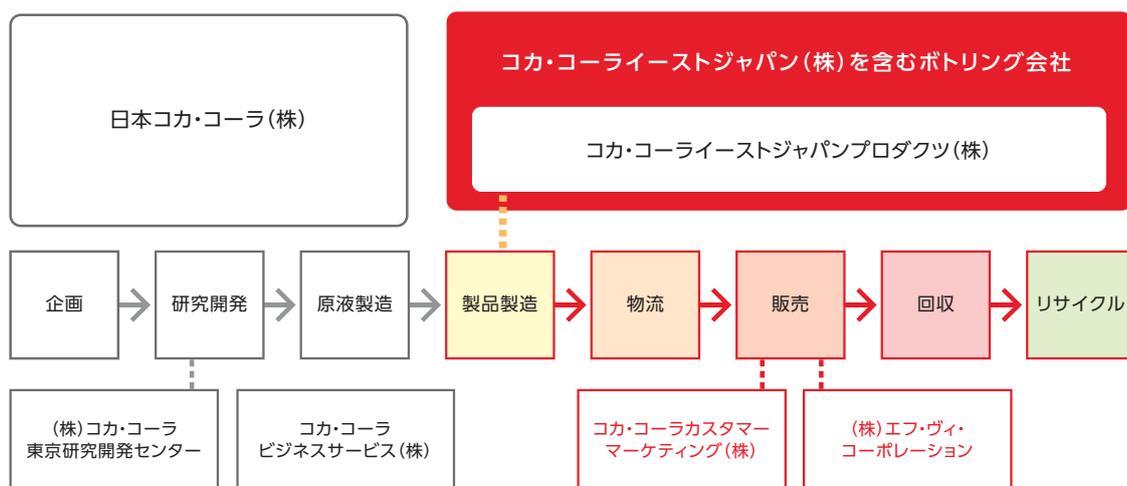
### ■ 情報セキュリティポリシー

当社は、個人情報や機密情報の流出、情報システムの破壊などの危険性に対処するため、情報セキュリティポリシーを定めています。退任・退職、あるいは契約の解除などにあたっては、個々の契約書により、機密情報に関する条件・制約が規定され、情報機器などの管理体制を整え、情報漏えい防止に努めています。

# 日本のコカ・コーラシステム／ コカ・コーライーストジャパングループの事業展開

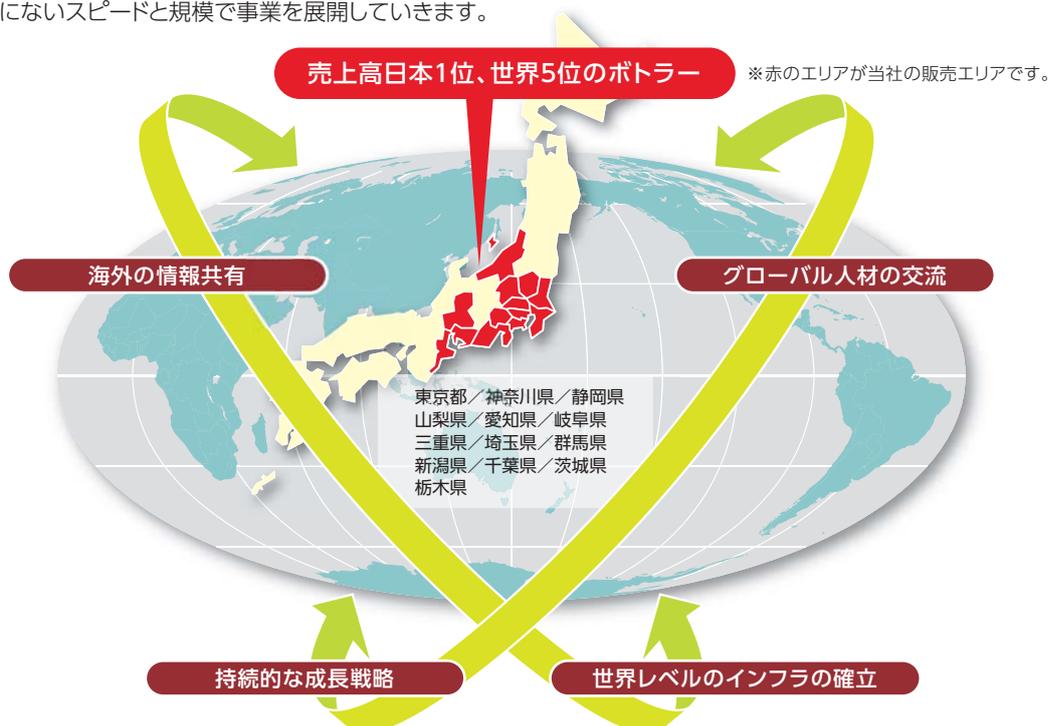
日本のコカ・コーラシステムは、原液の供給と製品の企画開発や広告などのマーケティング活動を行う日本コカ・コーラ(株)と、製品の製造・販売を行うボトリング会社(以下:ボトラー社)や関連会社などで構成されています。コカ・コーライーストジャパン(株)を含む各ボトラー社および関連会社では、全国の工場での製品製造をはじめとして、物流・輸送、販売活動を行っています。生産の効率化、徹底した消費者志向、市場への迅速な対応、顧客サービスの強化、厳格な品質管理など、全体の最適化を図りコカ・コーラビジネスのさらなる成長を目指し協働しています。

## 日本のコカ・コーラシステム



## コカ・コーライーストジャパングループの事業展開

経営統合により革新された当社のビジネス成長戦略は、ザ コカ・コーラ カンパニーが持つグローバル市場でのビジネス経験と国際経験が豊富な経営体制および、コカ・コーラシステムの世界200か国以上におよぶグローバルネットワークを活用しています。海外の情報網や活動事例を活かしながら、売上高日本1位(世界5位)のボトラーとしてこれまでにないスピードと規模で事業を展開していきます。



# コカ・コーラ・イーストジャパングループの概要

コカ・コーラ・イーストジャパン(株)は、コカ・コーラ セントラル ジャパン(株)、三国コカ・コーラボトリング(株)、東京コカ・コーラボトリング(株)、利根コカ・コーラボトリング(株)が経営統合し、2013年7月に発足しました。年間売上高で世界第5位のボトラー社であり、日本のコカ・コーラシステムにおける年間販売数量のほぼ半分を占めています。

## 会社概要

商号	コカ・コーラ・イーストジャパン株式会社 (英文社名:Coca-Cola East Japan Co., Ltd.)
本社所在地	〒107-0052 東京都港区赤坂6丁目1番20号 国際新赤坂ビル西館
代表者	代表取締役社長 カリン・ドラガン(Calin Dragan)
従業員数	7,891名(2013年12月31日現在)
事業内容	清涼飲料の製造、加工および販売
設立年月日	2001年6月29日 (2013年7月1日 コカ・コーラ・イーストジャパン株式会社に商号変更)
資本金	64億99百万円(2013年12月31日現在)
上場証券取引所	東京証券取引所(市場第一部)、名古屋証券取引所(市場第一部)

## 沿革

コカ・コーラ セントラル ジャパン(株)	1961年	中京コカ・コーラボトリング(株)(当時の社名は中京飲料(株))設立 富士コカ・コーラボトリング(株)(当時の社名は富士飲料(株))設立
	1971年	中京コカ・コーラボトリング(株)が東京および名古屋証券取引所に株式上場
	1993年	富士コカ・コーラボトリング(株)が東京証券取引所に株式上場
	2001年	両社共同でコカ・コーラ セントラル ジャパン(株)を設立
	2005年	コカ・コーラ セントラル ジャパン(株)完全合併
三国コカ・コーラ ボトリング(株)	1963年	三国コカ・コーラボトリング(株)(当時の社名は三国飲料(株))設立
	1971年	東京および新潟証券取引所に株式上場
	2012年	株式譲渡により、筆頭株主が「ザ コカ・コーラ カンパニー」の100%子会社であるヨーロッパアンリフレッシュメントズに移行
東京コカ・コーラ ボトリング(株)	1956年	東京コカ・コーラボトリング(株)(当時の社名は東京飲料(株))設立
	1991年	社名を(株)丸仁に変更するとともに、清涼飲料の製造・販売部門を分離专业化、新しい東京コカ・コーラボトリング(株)として再発足
	2007年	第三者割当増資を実施、日本コカ・コーラ(株)がこれを引き受け総株数の34%を出資
利根コカ・コーラ ボトリング(株)	1962年	利根コカ・コーラボトリング(株)(当時の社名は利根飲料(株))設立
	2009年	キッコーマン(株)をはじめとする株主から株式を取得し、日本コカ・コーラ(株)が発行済株式50%(160万株)を保有
コカ・コーラ イーストジャパン(株)	2012年12月	コカ・コーラ セントラル ジャパン(株)、三国コカ・コーラボトリング(株)、東京コカ・コーラボトリング(株)および利根コカ・コーラボトリング(株)は、2013年7月1日を効力発生日として、株式交換および新設分割を併用することによる経営統合を発表
	2013年7月	経営統合によりコカ・コーラ・イーストジャパン(株)が発足
	2014年1月	コカ・コーラ・イーストジャパンプロダクツ(株)を存続会社とし、白州ヘルス飲料(株)、コカ・コーラセントラルジャパンプロダクツ(株)および三国アセプティック(株)を消滅会社とする吸収合併を実施

## コカ・コーラ・イーストジャパングループの概要

### 数字で見るコカ・コーラ・イーストジャパングループの特長



2013年度の財務諸表をもとに算出



2013年9月「人口推計」(総務省統計局)  
をもとに算出



当社調べ



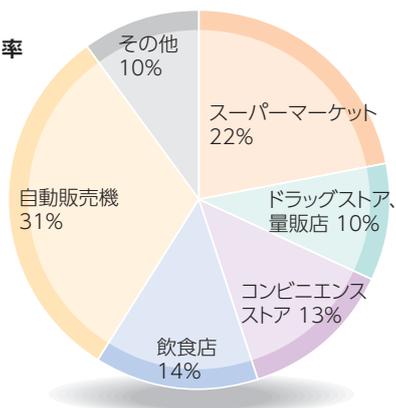
当社調べ



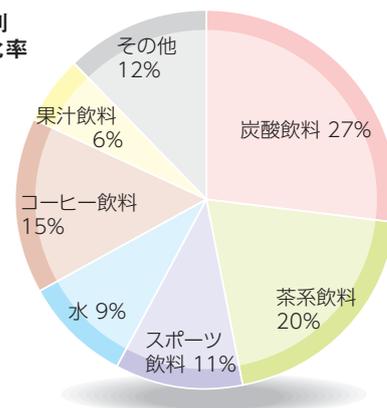
当社調べ

### 販売数量の内訳

#### ● チャンネル別 販売数量比率



#### ● カテゴリー別 販売数量比率



### 株式情報

#### ● 株式の状況

発行可能株式総数	487,000,000株
発行済株式総数	121,898,978株
株主数	24,473名

#### ● 株主優待制度のご案内

当社では日頃のご支援に対する感謝のしるしと、当社製品へのご理解を深めていただく機会として、毎年12月31日現在の株主のみなさまに、年1回当社製品を贈呈させていただくこととしました。

#### 贈呈基準

100株以上500株未満保有の株主さま → 1,440円相当の当社製品

500株以上保有の株主さま → 2,880円相当の当社製品

## 主要製品の紹介

コカ・コーラシステムでは、お客さまの価値観や嗜好の変化、またライフスタイルの多様化に対応し、水分補給、栄養補給、友人・家族との団らんなど、さまざまなニーズに応える製品づくりに取り組んでいます。現在、日本のコカ・コーラシステムでは8つのカテゴリーにわたり300以上の製品を製造・展開しています。コカ・コーラ・イースト・ジャパン(株)は、製品の製造・物流・販売を担う日本最大のボトラー社として、お客さまに安心してお飲みいただけるよう安全な製品を製造・販売しています。



炭酸飲料

コーヒー飲料



スポーツ飲料

茶系飲料

水



果汁飲料

エネルギー飲料

アクティブライフスタイル飲料

COCA-COLA、コカ・コーラ、COCA-COLA ZERO、コカ・コーラ ゼロ、GEORGIA、ジョージア、爽健美茶、そうけんびちゃ、からだ巡茶、綾鷹、あやたか、KOCHAKADEN、紅茶花伝、太陽のマテ茶、AQUARIUS、アクエリアス、AQUARIUS ZERO、アクエリアス ゼロ、FANTA、ファンタ、SPRITE、スプライト、REAL GOLD、リアルゴールド、Qoo、クoo、MINUTE MAID、ミニッツメイド、LOHAS、いーろは、す、BURN、バーン、REAL、リアル、は、The Coca-Cola Company Limitedの登録商標です。Schweppes、シュウェップス、は、Atlantic Industriesの登録商標です。Glaceau、グラソー、は、Energy Brands Inc.の登録商標です。CANADADRY、カナダドライ、は、Canada Dry Corporation Limitedの登録商標です。©The Coca-Cola Company

## コカ・コーラ・イースト・ジャパン サステナビリティ・レポート2014

### 編集方針

当レポートは、コカ・コーラ・イースト・ジャパン(株)および関連会社からなるコカ・コーラ・イースト・ジャパングループのサステナビリティに対する考え方と取り組みをステークホルダーのみならずみなさまにお伝えするものです。

巻頭のページでは、世界のコカ・コーラシステム内で展開されているコカ・コーラ アンバサダーの取り組みを紹介しています。

後半ページでは、統合以前を含め、この1年間の主な活動をわかりやすく紹介しました。

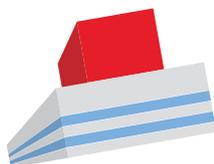
- 参考にしたガイドライン  
GRI (Global Reporting Initiative)「サステナビリティ・レポート・ガイドライン 第3.1版」
- 対象期間  
報告事例の対象期間は、2013年1月～2014年3月末までを原則としています。データの集計期間は、2013年1月～12月末までです。
- 対象範囲  
当レポートで開示しているデータは、コカ・コーラ・イースト・ジャパン(株)および関連会社における「製造」「物流・輸送」「販売」「回収・リサイクル」のデータです。
- 発行日  
2014年5月(英語版は6月にウェブサイトにて公開予定)
- 用語について  
コカ・コーラ・イースト・ジャパン(株)は当社を指し、コカ・コーラ・イースト・ジャパングループは当社および関連会社を指します。ボトラーは日本コカ・コーラ(株)が指定する全国のボトリング会社を指し、ボトリング会社と同義です。また、「コカ・コーラシステム」には日本コカ・コーラ(株)およびボトラー・関連会社が含まれます。

# Coca-Cola East Japan

コカ・コーライーストジャパンからお知らせ

## 工場見学のご案内

多くみなさまにコカ・コーラ社製品をより知っていただき、より親しんでいただくために、無料で工場見学を行っています。ご予約はウェブサイトおよび各工場の電話にて承っています。みなさまのご来場を心よりお待ちしております。



### 事前のご予約が必要です



### 工場見学のご案内ウェブサイト



<http://www.ccej.co.jp/csr/factory/>



#### ① 茨城工場



所在地 茨城県土浦市東中貫町4-1  
・JR常磐線 土浦駅からタクシーにて約15分  
・JR常磐線 神立駅からタクシーにて約7分  
・常磐自動車道 土浦北インターから約10分  
受付電話 029-831-2125  
(9:00～17:00 土日・祝日・工場休業日を除く)

#### ② 岩槻工場



所在地 埼玉県さいたま市岩槻区古ヶ場2-8-6  
・東武野田線 東岩槻駅からタクシーにて約10分  
・JR東北本線 蓮田駅からタクシーにて約10分  
・東北自動車道 岩槻インターから約15分  
受付電話 090-2668-1697  
(8:45～17:30 土日・祝日・工場休業日を除く)

#### ③ 多摩工場



所在地 東京都東久留米市野火止1-2-9  
・西武池袋線 清瀬駅南口から西武バス(武蔵小金井駅 前沢宿経由)にて約8分  
「東久留米総合高校」下車  
・西武池袋線 東久留米駅西口から西武バス(武蔵小金井駅 錦城高校経由)にて約8分  
「八幡町1丁目」下車  
受付電話 042-471-0463  
(9:00～16:00 土日・祝日・工場休業日を除く)

#### ④ 東海工場



所在地 愛知県東海市南柴田町トの割266-18  
・名鉄常滑線 名和駅下車徒歩20分  
・国道247号線(西知多産業道路) 二の割交差点を西へ200m  
・最寄インター: 名古屋高速 笠寺IC、伊勢湾岸自動車道 東海IC  
受付電話 052-602-0413  
(9:00～16:00 土日・祝日・工場休業日を除く)

本レポートに関するお問い合わせ先

**コカ・コーライーストジャパン株式会社** (コカ・コーラ指定会社)

広報・パブリックアフェアーズ本部 サステナビリティーマネジメント部  
〒221-0022 横浜市神奈川区守屋町3-13-6 Tel. 045-620-8187

<http://www.ccej.co.jp/>



森林に配慮して適切に管理された森林認証紙と環境にやさしい植物油インキを使用しています。